

【課題 3】 大阪湾再生のモデル地区としての情報発信、実験・研究機能の強化

堺浜では、臨海部企業と大学連携し「エコロジー研究所」を設置しており、企業現場で起こる様々な環境問題を中心にして、**大学の研究者や学生と企業内の開発・設計者、製品製作現場の技術者との共同研究を第一の目標にしつつ、地域の行政関係者や各種の団体（NPO）に関わる人との交流を進めながら、環境問題に関する様々な問題に取り組んでいます。**また**国・大学・NPO 等が環境再生の研究・実験・継続的な海域調査を実施**しています。また、堺市は「堺エコロジー大学」を設立し、**低炭素都市「クールシティ・堺」を実現し、持続可能な社会の構築に向け、産学民官の連携による新たな環境教育・人材育成の事業を推進**しています。以上より、堺浜においては「**大阪湾再生のモデル地区としての情報発信、実験・研究機能の強化**」が必要です。



図 グリーンフロント 堺・太陽光発電（現況）

【課題 4】 静穏な北泊地を活かした市民・来訪者が海と触れ合える場の創出

大阪湾周辺の水際線の親水性のレベルをみると、尼崎西宮芦屋港や貝塚市以南では水辺に近づくことができる水際線が一部残っているのに対し、堺泉北港、大阪港、神戸港の港湾区域の水際線は親水性の低い地域が多数を占めており、**親水性に乏しい状況にあります。**大阪湾周辺の水際線に位置する港湾緑地をみると、堺 2 区、堺第 7-3 区において港湾緑地が整備されており、他地域に比べて同程度の整備状況にあります。

先端緑地においては基幹的広域防災拠点に位置づけられており、憩いの場として、ドッグランができる場として**広く市民に利用されています。**

一方、市民のニーズからは、**水質改善を行い、親水性を高めることが重要、市民の憩いの場の創出を求める**という声が上がっています。

以上より、堺浜においては「**静穏な北泊地を活かした市民・来訪者が海と触れ合える場の創出**」が必要です。

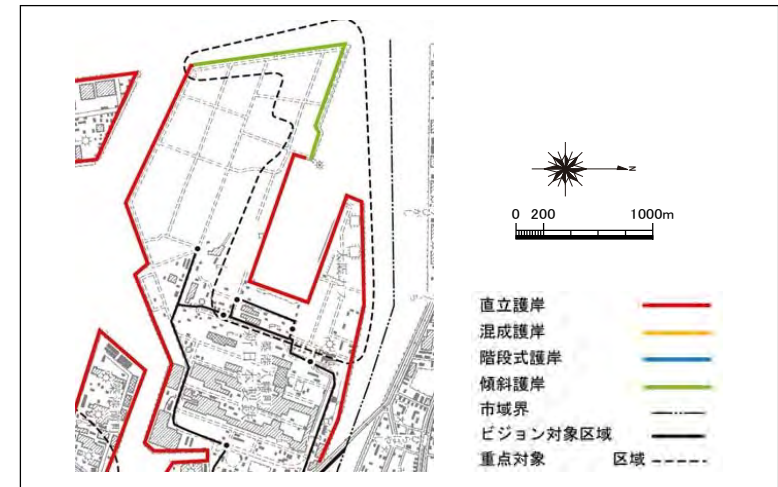


図 堺浜の護岸の形状



図 親水性護岸の整備状況